

JA全農 WEEKLY

3-5面

令和3年度事業計画のあらまし

(経営企画部)

7面

エコープマークが誕生50周年
(くらし支援事業部)



新番組「ごちそうさまのカタチ」がBSフジでスタート(8面)



金沢市のJR金沢駅ショッピングモール「あんど」に開店した石川県本部の能登牛焼肉弁当店「ひゃくまんぞく亭」(8面)



誕生して50周年を迎えた「エコープマーク」(7面)

2 山崎理事長新年度のごあいさつ(経営企画部)

6 JA全農のSDGsへの取り組み

8 新番組「ごちそうさまのカタチ」がBSフジでスタート(広報・調査部)

能登牛焼肉弁当店「ひゃくまんぞく亭」オープン(石川県本部)

JAタウンショップ紹介
酪市酪座 - うしさんからのおすすめ -

Web版JA全農ウィークリーはこちら



<https://www.zennoh-weekly.jp/>



『JA全農トピックス』のツイッターはこちら



環境変化を乗り越え、 未来を創造するため 挑戦し続ける全農



代表理事理事長
山崎 周二

令和3年度の事業開始にあたり、一言ごあいさつさせていただきます。会員の皆さま、組合員の皆さまにおかれましては、本会事業につきましても格別のご支援とご協力を賜っておりますこと、重ねて厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は未だ世界中で深刻な影響を及ぼしており、いつ収束するとも分からない状況です。日本でもワクチンの接種が始まりましたが、以前のように自由な経済活動がいつ再開できるのか先の読めない中、不安な日々をお過ごしかと思えます。

本年度は令和元々3年の3か年計画の最終年度です。3か年計画においては、「全力結集で挑戦し、未来を創る」とい

うキャッチフレーズのもと、生産・流通・消費構造・海外情勢の急激な変化、SDGsなどの社会的要求に対応するため、5年後、10年後を見据えた取り組みをすすめてきました。今年度はその総仕上げと位置付けています。

事業計画の基本的な考え方は、本会グループ役員員の総力を結集して、次の5つの重点事業施策を加速化することです。

第一に、「生産基盤の確立」では、労働力支援、スマート農業の普及、輸出・加工向け産地づくりの強化、および広域集出荷施設の設定や物流合理化に取り組みます。

第二に、「食のトップブランドとしての地位の確立」では、企業とのアライアンス強化による商品開発・ブランド力の強化や、コロナ禍の消費者ニーズの変化、実需者ニーズへの対応に取り組みます。

第三に、「元氣な地域社会づくりへの支援」では、ファーマーズ型店舗やライフレイン事業の強化、ホームエネルギー事業の拡大をすすめます。

第四に、「海外戦略の構築」では、輸出拡大に向けた海外拠点の拡充、eコマースの活用に取り組むとともに、購買部門における海外からの原料・資材の調達力強化をはかります。

第五に、「JAへの支援強化」では、JAの経営分析等をふまえて、「経済事業強化メニュー」の提案と実践など継続的な支援に取り組みます。

また、全農グループ全体として経営資源の有効活用をすすめるとともに、国産農畜産物の消費拡大に向けた情報発信、コロナ禍での事業継続体制の維持に取り組みます。また、自然災害や重要家畜疾病からの復旧・復興にも取り組みます。

最後に、全農は2022年3月に創立50周年を迎えます。1972年4月に全購連・全販連が合併、その後の経済連との統合連合の組成など、本会は時代の変化に対応し、さまざまな挑戦を続けてまいりました。今後も組合員・JA、お取引先、消費者の皆さまから支持され「なくてはならない全農」として挑戦を続け、未来を創造してまいります。

情勢認識

- 1 新型コロナウイルス感染症の拡大による農業現場および消費行動の変化(労働力不足、内食化、eコマース・宅配ニーズの拡大、衛生意識の高まりなど)
- 2 国内人口・農業就業者の減少や農地集積などの進展
- 3 農畜産物や生産資材の円滑な流通体制維持への懸念
- 4 政府による「食料・農業・農村基本計画」の決定(多様な経営体の活躍促進、輸出拡大など)
- 5 JAの信用・共済事業の収益低下と、経済事業の早急な収益改善
- 6 自然災害や重要家畜疾病の度重なる発生
- 7 社会的な課題をふまえたSDGs(持続可能な開発目標)に対する取り組みの要請
- 8 デジタル化の進展にともなう農業での多様な先端技術の導入・普及



緊急事態宣言時の外出自粛や飲食店の休業



台風の強風でつぶれたハウス



SDGsの17の目標

基本的な考え方

3か年(元~3年度)計画最終年度

最重点事業施策の加速化

1 生産基盤の確立

2 食のトップブランドとしての地位の確立

3 元気な地域社会づくりへの支援

4 海外戦略の構築

5 JAへの支援強化

情勢をふまえた本会の対応

.....
コロナ禍における生産・消費の変化への対応

.....
自然災害・重要家畜疾病からの復旧・復興

.....
「食料・農業・農村基本計画」に対応した施策展開

.....
グループ会社と一体となった事業競争力強化

.....
SDGs(持続可能な開発目標)への取り組み

令和3年度事業計画のあらまし

最重点事業施策

生産基盤の確立

1 労働力支援や担い手の育成

- 1 農作業受委託や農福連携などによる労働力支援やブロック協議会での広域連携
- 2 新規就農者研修事業の実施や実践型研修農場の運営を通じた新規就農者の育成

2 農業現場での取組強化

- 1 「Z-GIS」や「ザルピオフィールドマネージャー」等のスマート農業技術の普及による生産性向上、「ゆめファーム全農」における大規模施設園芸技術の実証
- 2 堆肥や飼料作物を循環させる耕畜連携の実践
- 3 輸出・加工業務用向け農畜産物の産地づくりの強化
- 4 牛舎賃貸事業の拡大や搾乳の超省力化モデルの実証を通じた家族経営支援

3 物流合理化と購買品目の競争力強化

- 1 青果物の広域集出荷施設や産地ストックポイントの整備、米の統一フレコンの導入・普及
- 2 JA資材店舗の再編・整備への支援や共同運営
- 3 中型共同購入トラクターの供給拡大や全国標準規格段ボール箱への集約



ゆめファーム全農とちぎの研修生

食のトップブランドとしての地位の確立

1 商品開発力・ブランド力の強化と需給調整機能の発揮

- 1 グループ販売会社やファミリーマートなど資本・業務提携先との連携強化、「全農グループMD部会」による商品開発
- 2 生乳流通の需給調整機能の発揮と、業務用牛乳の安定販売

2 コロナ禍の消費者ニーズ等をふまえた対応

- 1 JAの出店促進による品ぞろえ拡充と会員向け特典プログラム導入などの販売促進強化によるJAタウンの取扱拡大
- 2 冷凍青果物の製造や実需者への共同配送等の機能を有する大消費地販売に向けた事業拠点整備
- 3 青果物の包装・加工・冷蔵機能などを有する、地域における直販施設の整備・拡充

3 実需者ニーズにもとづく生産提案と契約栽培

- 1 実需者ニーズに応じた多収米等の契約栽培の拡大
- 2 大手製粉会社との提携による国産小麦の安定的な需要確保と生産拡大
- 3 資本・業務提携先を含む実需者への安定供給に向けた、加工・業務用青果物の契約栽培の拡大



JAタウンのWEBサイト

事業運営・経営管理

- 1 グループ会社間の業務連携や集約・再編
- 2 国産農畜産物の消費拡大に向けた情報発信や、食農教育の実践
- 3 コロナ禍の感染予防対策と事業継続体制の維持

自然災害・重要家畜疾病からの復旧・復興

- 1 営農再開への支援と災害等に備えた態勢整備
- 2 豚熱 (CSF) や高病原性鳥インフルエンザ等の重要家畜疾病の拡大防止に向けた防疫対策支援

元気な地域社会づくりへの支援

1 地域のくらし支援強化

- 1 ファーマーズ型店舗の拡大による地産地消の取組強化、Aコープ会社の事業基盤強化
- 2 宅配事業や買物インフラ維持支援の拡大、農泊のモデル展開などライフライン事業の取組強化

2 燃料供給体制の維持・強化とホームエネルギー事業の取組強化

- 1 セルフSSの設置やガスキャッチの普及拡大
- 2 組合員家庭向け電力供給や再生可能エネルギーの普及拡大



Aコープファーマーズみやうちの店内

海外戦略の構築

1 輸出事業の拡大とオールジャパンでの輸出体制の構築

- 1 海外展開を積極的にすすめる他企業との連携強化によるマーケットイン型の輸出事業の確立
- 2 海外拠点の拡充や産地間リレーの実践、eコマースの活用

2 資材・原料の安定確保

- 1 原料産地の多元化による肥料原料の安定確保
- 2 米国・ブラジル・カナダの関連会社を通じた現地での穀物集荷・調達の拡大



海外の小売店で販売される日本産の青果物

JAへの支援強化

- 1 JA経済事業の部門・場所別収支分析をふまえた、全県域における「経済事業強化メニュー」の提案と実践
- 2 他連合会等と連携した「見える化プログラム」の導入による改善支援と県域における水平展開
- 3 県域JAが取り組む営農・経済事業改革プロジェクト等への参画、および現場での継続的な支援
- 4 「農家手取り最大化実践メニュー」の実践や、講習会・研修会を通じた人材育成

令和3年度経営計画

取扱高は、生活関連事業における石油の単価安およびコロナ禍による需要減等が見込まれる一方、園芸事業において、元年度に発生した台風被害からの回復による取扱数量の増加などを見込み、4兆5,000億円を計画します。

(単位:億円、%)

事業	3年度計画	元年度実績	実績比
米穀農産事業	7,031	7,094	99
園芸事業	12,520	10,987	114
営農・生産資材事業	7,876	7,870	100
畜産事業	10,046	10,364	97
生活関連事業	7,528	8,453	89
合計	45,000	44,768	101

(注) 消費税については、税抜表示です。また、端数処理の関係上、合計等が一致しないことがあります。



生産から販売の各段階の 事業通じて貢献へ

JAグループは「食と農を基軸として地域に根差した協同組合」として、持続可能な地域農業・地域社会づくりに向け、2020年5月に「JAグループSDGs取組宣言」を策定し、事業を通じて貢献していくこととしています。

全農は生産から販売につながるフードバリューチェーンの各段階における全事業を通じて、「誰一人取り残さない」SDGsが目指す社会の実現に貢献していきます。

JA全農ウィークリーでは全農の事業や取り組みを報告してきましたが、今年度からSDGsの観点を取り入れた紙面づくりを通じて、情報を発信します。

	主な取り組み事項	関連するSDGs
生産	多様な労働力支援の取り組みによる生産現場での雇用創出	2 気候変動に起因する影響を軽減する持続可能な消費と生産 (SDG 2) / 8 働きがいも経済成長も (SDG 8)
	スマート農業技術の普及・推進による農作業省力化や高品質化	8 働きがいも経済成長も (SDG 8) / 9 産業と雇用創出 (SDG 9)
	環境に優しい土づくりの実践や資源の活用等による環境保全型農業の推進	12 つくって責任 (SDG 12) / 15 陸の豊かさも守ろう (SDG 15)
	圃場(ぼじょう)での自然分解が可能な生分解性マルチなど、環境に配慮した資材の普及	12 つくって責任 (SDG 12)
	土壌診断の活用提案による適正施肥の推進	12 つくって責任 (SDG 12) / 15 陸の豊かさも守ろう (SDG 15)
販売・消費	地域内で堆肥や飼料作物を循環させる耕畜連携の推進と生産物の販売	12 つくって責任 (SDG 12)
	廃棄予定の農産物を活用した他企業との商品開発	12 つくって責任 (SDG 12) / 17 パートナーシップで目標を達成しよう (SDG 17)
	産地から消費地までの安定的な食料供給に資するインフラの整備	2 気候変動に起因する影響を軽減する持続可能な消費と生産 (SDG 2) / 9 産業と雇用創出 (SDG 9)
	トラックからフェリーなどへのモーダルシフトによる輸送負荷の低減	8 働きがいも経済成長も (SDG 8) / 13 気候変動に具体的な対策を (SDG 13)
	食の安全確保と適切な情報開示	12 つくって責任 (SDG 12)
地域	農福連携による障害者の社会進出支援	1 貧困をなくそう (SDG 1) / 10 人や国の不平等をなくそう (SDG 10)
	JA生活店舗の経営支援や移動購買車の導入による地域における生活インフラの維持	1 貧困をなくそう (SDG 1) / 2 気候変動に起因する影響を軽減する持続可能な消費と生産 (SDG 2)
	再生可能エネルギー(太陽光や家庭用蓄電池)の活用・普及	7 持続可能なエネルギー (SDG 7) / 13 気候変動に具体的な対策を (SDG 13)
	食の役割や農業・環境の関係を学ぶ子どもへの食農教育	4 質の高い教育をみんなに (SDG 4) / 15 陸の豊かさも守ろう (SDG 15)
	子ども食堂への食材提供	1 貧困をなくそう (SDG 1) / 2 気候変動に起因する影響を軽減する持続可能な消費と生産 (SDG 2)

「エコプマーク」が誕生50周年

「エコプマーク」が1971（昭和46）年に誕生し、今年で50周年を迎えました。

【くらし支援事業部】

組合員や利用者の声反映し、約1000品展開



エコプマーク品は、国産原材料を優先使用し、食品添加物の摂取低減を基本とするなど「安全・安心」をコンセプトとし、全国の共同購入やAコープ店舗で展開しているJAグループのプライベートブランド商品です。開発以来、たくさんの方々を支えられ、現在も食品を中心に約1000品の商品を展開しています。

商品開発には、組合員や利用者の声を反映させる取り組みを行っています。ここ数年では、JA全国女性組織のフレッシュミズの皆さまと「ほめられ酢」を、JA全国女性組織協議会の皆さまとは「簡単和風だし旨！だしパック」を共同開発し、発売しました。

誕生50周年を記念し、4月1日から6月30日まで、全国オープンキャンペーンを実施しています。長らくご愛顧いただいている利用者への感謝と、これまでエコプマーク品を知らなかった方々に商品を知っていただく機会と考え、「ありがとう」と「はじめまして」の思いを込めたキャンペーンとなっています。詳しくは、キャンペーン専用WEBサイトをご覧ください。



旨！だしパック

かつお節をふんだんに使用し、さば節、昆布でバランスを整えた本格派のだしパック。JA全国女性協と共同開発



ほめられ酢

かける、つける、まぜるなどの簡単な調理で短時間に料理を作ることができる万能調味料。フレッシュミズと共同開発

日本の食卓とともに、50年。

エコプマーク誕生50周年キャンペーン

ありがとう。そして、はじめまして。

2021.4.10 ▶ 6.30

商品総額 **500万円** 相当以上が
合計 **555名** に当たる!!

5名	賞品総額 30万円分	25名	JAタウンギフトカード 4万5千円分
10名	ギフト旅行券 10万円分	515名	エコプマーク商品総額おまけ 3,000円相当

アンケートに答えるだけ！賞品ゲット!!

キャンペーン専用WEB応募サイトにアクセスしたとき、アンケートに答えてください。

キャンペーンサイトはこちら

キャンペーン専用のWEB応募サイト

※JAグループの役員は応募不可となっています。

エコプマーク品のサイトはこちら

新番組「ごちそうさまのカタチ」がBSフジでスタート

頑張る子どもたちを
地元の特産品で応援!

全農は4月7日から、BSフジで新番組「ごちそうさまのカタチ」をスタートします。【広報・調査部】

この番組の主人公は、全国各地でスポーツや芸術などを頑張る子どもたちです。地元レストランのシェフが地元の特産品を使った料理を振る舞い、子どもたちとその家族を応援します。

「ごちそうさま」は、食材を作ってくれた生産者の方々、食事を用意してくれた人々などへの感謝の思いが込められた言葉です。番組の最後には、子どもたちが家族やチームメイトへメッセージを伝える場面が流れます。一人一人の感謝の気持ちを「ごちそうさま」という言葉を通じて伝えます。

番組には全農グループの直営店舗も登場する予定です。また、番組で紹介した料理のレシピは、全農が運営するレシピサイト「作って食べよう! お料理レシピ」で公開します。



第1回の放送には東京都でフエ
ンシングを頑張っている土田悠
人くんが登場

番組概要

番組名:ごちそうさまのカタチ 放送局:BSフジ(BS8チャンネル)
放送日時:毎週水曜日 9:55~10:00
再放送:毎週火曜日 10:55~11:00

能登牛焼肉弁当店「ひやくまんぞく亭」オープン

「石川の食」の
魅力を発信

石川県本部は3月19日、JR金沢駅ショッピングモール「あんと」に、能登牛焼肉弁当店「ひやくまんぞく亭」を開店しました。

【石川県本部】

石川県のブランド和牛「能登牛」を店内で焼き上げ、大粒で冷めてもおいしいお米「ひやくまん穀」を使用したお弁当の販売をコンセプトに、石川県産農畜産物を発信するアンテナショップとしての役割を担います。店名にも、「能登牛」と「ひやくまん穀」を中心に、生産者と消費者が「ひやくまんぞく」するお店にしたいという思いが込められています。

開店から2日間のオープンイベントでは、購入者先着200名様に、「ひやくまん穀 精米2合パック」をプレゼント。「能登牛」のいい香りに包まれた店内周辺には、お弁当を買い求める方が多く訪れ、にぎわいを見せました。



JA全農のインターネットショッピングモール JAタウン ショップ紹介

酪市酪座 -うしさんからのおすすめ-

酪農大国・九州熊本の乳業メーカー「弘乳舎」のアイスクリームと「バタどら」がセットになりました。アイスクリームはバニラ、チーズ&クッキー、クリーム&クッキーの3種類。ミルク本来の甘さとうま味をしっかりと楽しみいただけます。

どら焼きの中に弘乳舎バターが入った「九州そだち阿蘇山麓塩バタどら」は、バターのコクと塩味があんなに甘さを引き立て、くどくない後味になるように仕上げました。しっとり食感の生地があんなことバターをやさしく包み込んだほっこりできるお菓子です。



「九州そだち」アイス・バタどらセット
……3500円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

休刊のお知らせ
4月12日号は休刊いたします。
次は4月19日号です。

私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心して結ぶ懸け橋
になります。